



が押し進める路線と、私立大学の打ち出してきた独自色を併せたイメージで作られてきました。しかし、どの大学も基本的にはほとんど同じような路線を歩んできたと思います。校風などによる色合いの違いはありますが、今後ともっと個性を出さないといけないだろうと考えています。同じ学問を学ぶにしても、名古屋学院大学は他大学とはこんなに違うという点をどれだけ打ち出していけるか。本学の生き残りはこの点にかかっています。

会長 「一人一人の顔が見える教育」と「個性輝く大学」というキーワードを述べていただきましたが、具体的な事例があれば教えてくださいませんか。

学長 学内と学生をネットワークで結ぶ「※キャンパスコミュニケーションシステム(CCS)」というものが今年度から本格的に稼働しています。これは既に昨年度から試験的に始まっていますが、このシステムが他大学を差別化する、本学の大きな個性であると考えています。いわゆるコンピューターを駆使したネットワークシステムで、「二人一人の顔が見える教育」を行う上での強力なハードウェアとなっています。これはまだ他大学にはない教育支援システムであり、本格稼働させているのは本学が全国唯一です。

全国唯一 双方向ネットワークシステム

「本学の同窓生として、母校が全国唯一のシステムを持っていると聞いて大変うれしいのですが、※キャンパスコミュニケーションシステム」とは一体どのようなものですか。

学長 基本的にCCSは、学生・教員・大学事務局の3者の間で自由な双方向コミュニケーションが行えるシステムです。学生・教員・事務局職員の全員の顔写真が付いた、ポータルサイトとい

う専用画面を持っていて、一人一人に直接関係した情報のみ伝達されるわけです。あらゆる連絡事項が自由自在に、しかも特定の人あるいは特定の人数に伝えることができます。例えば、あるクラスで3人の学生が講義を欠席したとして、それに対する連絡事項はその3人だけに伝達されます。単なる連絡事項だけでなく、履修登録やレポートの提出、資料のダウンロードもできます。情報のキャッチボールが簡単かつスムーズに行えるようシステム化していますから、その利便性はかなりのものであると自負しています。

会長 つまり、双方向性を持つネットワークシステムなんですね。CCSは全国唯一の教育支援システムであると先程言われましたが、他大学にもコンピューターネットワークを使ったシステムは存在すると思います。他大学との明確な違いは何ですか。

学長 双方向性を持つということ、インターネットを活用し、いつでも、どこでも、自由にやりとりができる点です。学生の9割近くが携帯メールアドレスを登録していて、必要な情報がパソコンでも携帯でも受けられるようになっています。他大学にもインターネットを使ったシステムはありますが、本学のように双方向性を持っていません。休講情報を携帯電話やパソコンに送信するのみの事務連絡システムはよく見かけますが、これは初歩の初歩です。CCSでは学生からの返事もレスポンス良く返ってきます。

会長 大変素晴らしいシステムであることはわかりました。例えば、CCSを講義で活用することはないのでか。双方向性という意味で

はかなりのことができそうに思えますが。

学長 実際にコンピューターを使っている講義では活用されていますね。ある問題についてその場で学生に答えさせたとしても、教員は全員の間でその場でわかりますから、学生一人一人の理解度を把握した上で、次のステップに進んでいきます。また、予習・復習についてもCCSですべてできるようになっています。予習・復習の教材をCCS上にセットしておけば、学生は自由にそれを出して問題を解き、採点も自動的にできるようになっています。しかも、教員側はどの学生が問題をどのように解き、理解力がどれ程あるか確認することもできます。ある教科で統計分析をしたところ、CCSで予習・復習のトレーニングをした学生ほど、適格に成績が上がりつつあるというデータも出ています。

会長 学生・教員・事務局職員のコミュニケーションが実際にスムーズで効果的なんですね。顔写真も付いているから、一目で誰かもわかるという…。CCSはまさに「二人一人の顔が見える教育」を行い、「個性輝く大学」にしていこう取り組みといえますね。



本学ホームページ 「使いやすい」で全国2位!

「この他に新しく取り組んでいることがあればお話しいただけますか。」

学長 今年度から「特色ある大学教育支援プログラム」がスタートしており、本学もCCSで「特色ある大学教育プログラム」、いわゆる「教育トップ100」と呼ばれる大学枠に入るよう、現在、文部科学省に申請中です。これは数ある全国の大学の中から約1割しか認定されないもので、是非とも選ばれて、全国に名古屋

学院大学の魅力をアピールできる起爆剤にしたいと願っています。

会長 話は変わりますが、本学のホームページが朝日新聞の關係誌で好評価を得たと聞きました。これについて教えてくださいませんか。

学長 朝日新聞の「大学ランキング2004」という本の中で、「ホームページの使いやすさ」という項目で本学ホームページが全国2位の評価をいただきました。元々、本学は情報教育に強い大学ですので、これが証明されたという意味でも、この成績は大変喜ばしいことでした。

同窓生子弟対象AO入試スタート 大学ファミリー形成に是非受験を

「最後に、今年から「同窓会子弟対象AO入試」が始まりましたが、この点について一言。

学長 同窓生子弟を対象にしたAO入試を始めさせていただく上での主旨は、同窓生の方が持たれる「こ子弟を本学に入学させたい」というお気持ちに是非お応えしたいということに尽きます。基本的に本学のファミリーは、同窓生の方、ご父母の方で形成されていると考えていますので、その絆をもっと強固にしていきたいということです。

会長 大変お忙しい中、貴重な時間をいただきました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。

※「キャンパスコミュニケーションシステム」の詳細は、本紙P6に掲載しています。

Profile

名古屋学院大学 学長
持田 辰郎
1952年生まれ 島根県出身

東京大学文学部卒
1982年 本学経済学部講師に就任
1993年 教授に就任
2002年 名古屋学院大学 学長に就任
●研究分野 西洋近代哲学